

「持続可能な観光のためのビジネス標準
ホワイトペーパー」 5. 評価システム
に関する検討

2023. 10. 19.

JEC観光検討会

1. 評価システム(「ビジネス標準」ホワイトペーパー)

《提案のポイント》

- 1) 実践者の‘実践に対する自己評価’
- 2) 自己評価は、CMMIを観光へ適用した成熟度レベル(レベル0、1～5)で評価
 - －良い取組みとは、‘実施事項を、設定した期限までに予算内に確実に遂行すること’を反映した評価
- 3) 自己評価項目は、各カテゴリーの実施事項を、実践者が優先的に取り組むべき観光の優先項目(A.～E.)に再構成して評価
- 4) 実践者の実施事項および自己評価情報を、ネットワークを通じて公表
 - －購入者がEPsを購入する際、持続可能な観光を識別することが可能となる評価情報



【狙い】 購入者がEPsを購入する際、持続可能な観光を識別することが可能となる評価情報

“識別することが可能”とは？

- －カテゴリー別の実践者(自己評価者)間におけるSDGs取組みの差異が判別できること

《条件》

- ① 評価基準は実践者間におけるSDGs取組みの差異が可能な限り顕在化するものであること
- ② 実践者による‘実践に対する自己評価’基準は、‘良い取組み’を評価するものであること
- ③ 公表される評価情報は、公平な(実践者間の共通認識による)評価基準において評価されたものであること

【課題】

- 1) ‘再構成された優先項目(A.～E.)単位に各カテゴリーの実施事項を評価する’ことは、実践者間の取組み差異により‘EPsを購入する際の持続可能な観光を識別する’評価情報としては情報量が少ない
- 2) 「ビジネス標準」に記載の実施項目の表記は、自己評価者間の評価判断に曖昧さを生じる

2. 評価システム — 評価基準の活用案

公表される評価情報は、‘公平な評価基準(自己評価者の共通認識)において評価されたものである’ことを確保するために…

(案1) 実践者(自己評価者)に、実施事項を補完する可能な限り多くの情報(例示列举)を予め提示し、実践者(自己評価者)は、これらを参考に取組みの自己評価をする

(案2) 実践者(自己評価者)は、夫々に取組みを自己評価し、それを基に評価組織(JTREC?)側に予め定めた評価基準に照らして評価を確定する

(例) 4.2 宿泊施設

6.4 「持続可能な真水の供給とリサイクルを確保する」

6.4 「水の消費量を最小限に抑える(ために節水装置を使用する)」

実践者が自己評価するにあたり、その実施事項に関する認識(理解)により、評価に差異が生じる懸念がある



考えられる取組みの例示列举(知見や生成AI等からヒントを得る)

⇒ 評価基準として活用する(案)

- ・トイレ洗浄水への雨水利用
- ・植栽散水への雨水利用
- ・シャワー水を浄化しトイレ洗浄水に利用(「グレーウォーターシステム」)
- ・洗濯機の再利用水利用装置の設置

- ・節水シャワーノズルと節水トイレの使用(実施事項に例示)
- ・シャワーの使用時間を短縮する - ゲストにシャワーの使用時間を意識し、節水を心がけるよう促す
- ・水の漏れを防ぐ - 定期的に点検や修理を実施する
- ・無駄な使用を防ぐ - 水の使用中に蛇口を閉める、シャワーの水圧を低くする、洗濯機や食器洗い機を満杯にしてから使う
- ・ゲストとは分かり易い具体的な言葉でコミュニケーションを取る(×「節水を！」)